

景気ウォッチャー調査 平成 12 年 12 月調査結果
(概要)

平成 13 年 1 月
内閣府政策統括官
(経済財政 - 景気判断・政策分析担当)

1. 景気の現状判断D I

3か月前と比較しての景気の現状に対する判断は、以下のとおりであった。

(1) 全国の動向

図表1 分野別D I H12年

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計	50.4	48.8	47.8	46.5 (45.6)	45.3 (45.1)	44.4 (45.9)
家計動向関連	48.8	46.2	44.7	42.9 (42.4)	42.6 (42.0)	43.7 (45.1)
小売関連	45.5	43.5	43.6	41.8 (39.9)	41.1 (41.5)	40.9 (40.9)
飲食関連	48.6	43.9	39.2	36.5 (36.8)	40.8 (37.5)	48.6 (51.0)
サービス関連	53.1	51.9	47.9	47.9 (48.6)	46.9 (45.2)	48.4 (48.4)
住宅関連				42.0	42.4	45.1
企業動向関連	52.3	52.6	53.5	51.3 (51.7)	49.0 (51.1)	44.6 (47.5)
製造業				51.9	48.6	44.8
非製造業				51.0	48.8	44.3
雇用関連	60.0	62.5	59.4	60.5 (57.6)	56.4 (57.2)	48.6 (49.4)

図表2 構成比		良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	D I
H12年	10月	1.5%	19.8%	48.1%	24.5%	6.2%	46.5
		(1.3%)	(18.4%)	(48.6%)	(25.0%)	(6.8%)	(45.6)
	11月	1.2%	18.8%	47.0%	25.9%	7.0%	45.3
	(1.7%)	(18.3%)	(46.8%)	(25.5%)	(7.8%)	(45.1)	
	12月	1.6%	16.9%	45.7%	29.0%	6.8%	44.4
		(2.2%)	(20.6%)	(42.5%)	(28.0%)	(6.6%)	(45.9)

(2) 各地域の動向

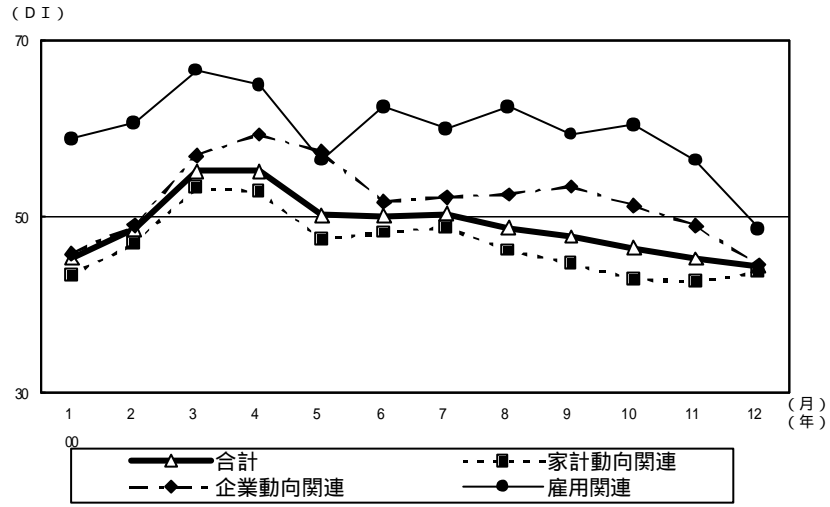
図表3 地域別D I H12年

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全国	50.4	48.8	47.8	46.5 (45.6)	45.3 (45.1)	44.4 (45.9)
北海道	49.7	45.5	46.2	46.1 (44.4)	48.3 (46.1)	48.5 (47.9)
東北	46.0	48.1	48.2	47.8 (44.7)	43.3 (42.0)	41.8 (44.2)
関東	50.3	47.1	47.3	47.9 (46.9)	44.5 (48.3)	44.7 (49.4)
北関東				47.6	47.0	43.3
南関東				48.1	43.3	45.3
東海	53.3	55.7	53.1	49.7 (50.8)	47.7 (46.2)	43.9 (45.2)
北陸				43.0	44.2	45.9
近畿	48.6	47.5	48.9	46.0 (41.8)	46.1 (44.1)	45.6 (42.1)
中国				46.0	46.3	42.5
四国				39.9	43.4	40.8
九州	54.5	49.2	43.1	46.4 (44.8)	43.7 (44.0)	45.2 (46.7)
沖縄				45.8	50.0	44.0

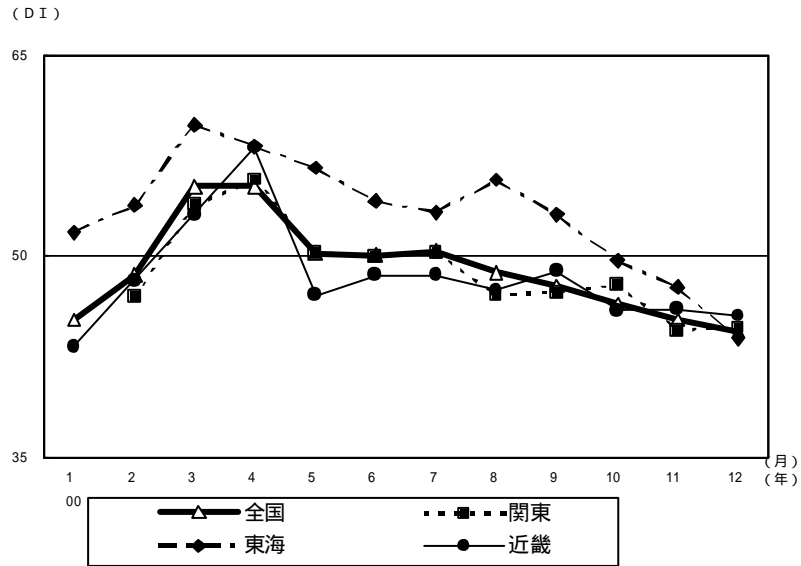
(備考)

- 10月以降は全国1,500人を対象とし、9月以前は6地域600人を対象とする。カッコ内は9月以前と同様の600人を対象とする数値。
2. 沖縄のD Iは、調査客体数が少ないことから、当面の間、参考扱いとする。

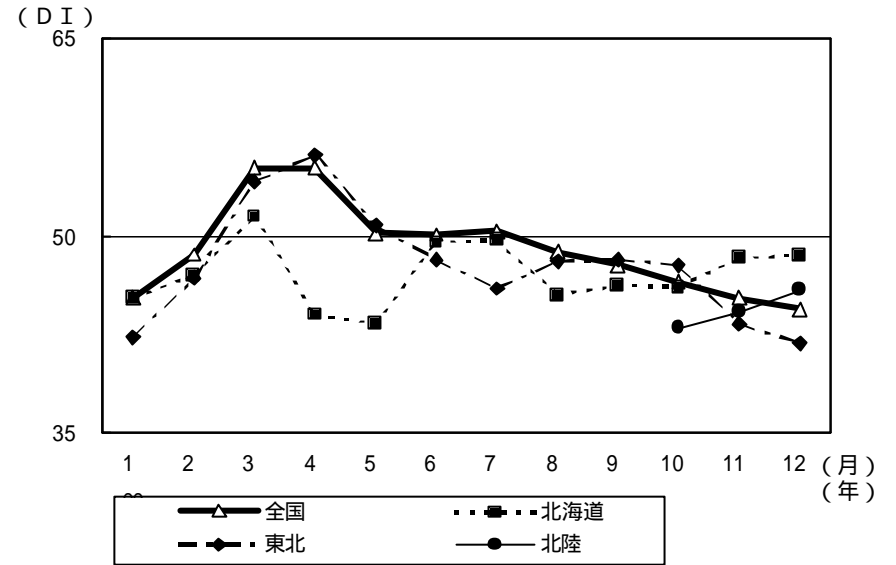
図表4 全国分野別D I



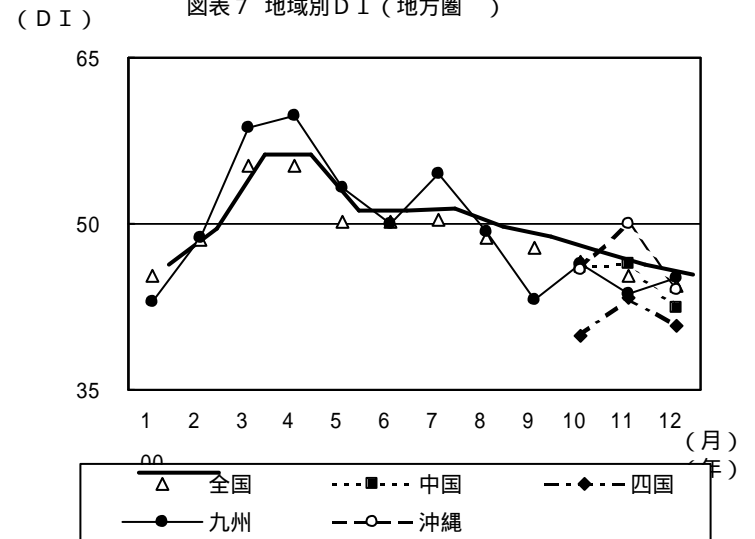
図表5 地域別D I (大都市圏)



図表6 地域別D I (地方圏)



図表7 地域別D I (地方圏)



2. 景気の先行き判断D I

2～3か月先の景気の先行きに対する判断は、以下のとおりであった。

(1) 全国の動向

図表8 分野別D I H12年

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計	51.3	51.2	52.6	48.9 (49.1)	47.2 (47.3)	44.3 (43.3)
家計動向関連	49.3	47.9	50.0	47.2 (47.3)	46.4 (46.0)	44.1 (42.2)
小売関連	46.3	45.4	46.8	45.6 (44.5)	45.5 (45.2)	43.3 (40.9)
飲食関連	47.6	48.2	49.1	49.4 (49.5)	48.1 (47.6)	39.2 (38.0)
サービス関連	53.3	52.4	55.5	50.5 (50.8)	48.7 (48.2)	46.2 (44.8)
住宅関連				46.2	44.2	48.5
企業動向関連	54.4	57.7	56.7	50.9 (51.1)	47.3 (48.7)	43.8 (45.3)
製造業				50.2	44.4	42.8
非製造業				51.4	49.7	44.8
雇用関連	61.1	63.6	64.1	56.7 (59.2)	53.0 (55.0)	47.4 (47.7)

図表9 構成比		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	D I
H12年	10月	1.2%	20.4%	55.3%	19.4%	3.8%	48.9
		(1.6%)	(20.9%)	(54.1%)	(18.9%)	(4.5%)	(49.1)
	11月	0.7%	17.8%	55.8%	21.2%	4.5%	47.2
		(0.6%)	(17.0%)	(58.2%)	(19.6%)	(4.6%)	(47.3)
	12月	0.8%	14.8%	52.0%	25.7%	6.6%	44.3
		(0.9%)	(12.2%)	(52.9%)	(27.4%)	(6.6%)	(43.3)

(2) 各地域の動向

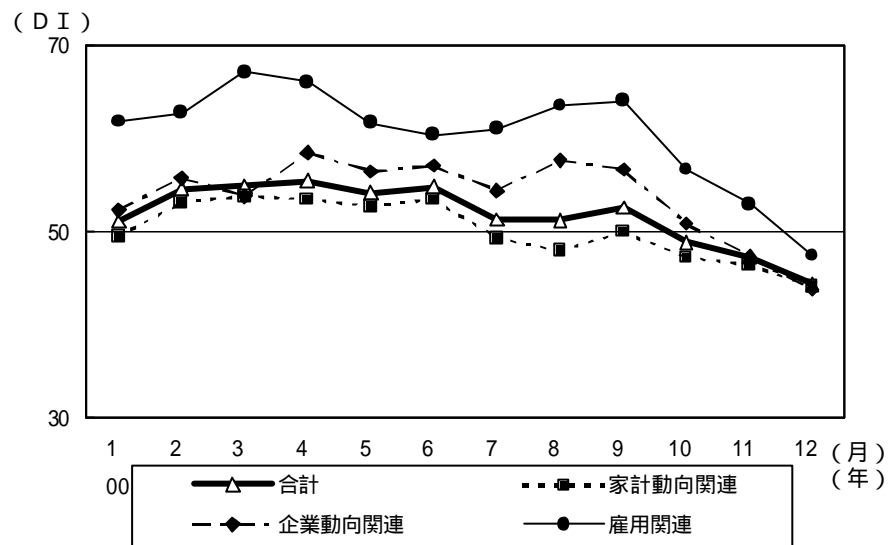
図表10 地域別D I H12年

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全国	51.3	51.2	52.6	48.9 (49.1)	47.2 (47.3)	44.3 (43.3)
北海道	50.5	47.2	49.0	44.1 (44.7)	46.5 (46.4)	42.9 (42.9)
東北	49.5	49.7	52.9	51.4 (52.8)	46.6 (46.6)	42.4 (42.4)
関東	52.2	53.7	54.6	50.3 (51.1)	47.8 (48.0)	44.0 (46.3)
北関東				48.6	47.0	43.0
南関東				51.1	48.2	44.5
東海	53.0	55.7	56.3	52.5 (51.6)	49.9 (49.5)	43.7 (42.4)
北陸				47.3	44.4	45.4
近畿	50.8	51.7	53.3	49.2 (46.5)	47.6 (46.3)	45.5 (44.3)
中国				48.0	46.5	45.5
四国				44.1	45.8	44.3
九州	51.6	49.5	49.7	47.2 (48.2)	47.3 (47.1)	44.9 (41.6)
沖縄				57.3	47.6	53.6

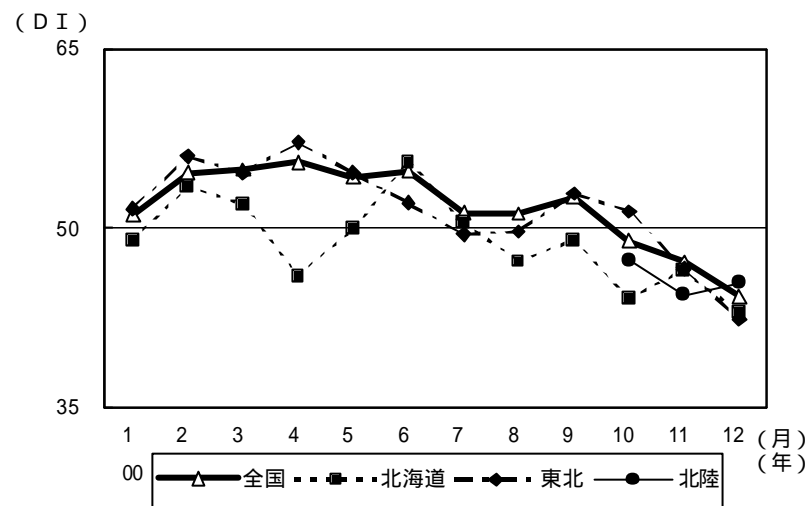
(備考)

- 10月以降は全国1,500人を対象とし、9月以前は6地域600人を対象とする。カッコ内は9月以前と同様の600人を対象とする数値。
2. 沖縄のD Iは、調査客体数が少ないことから、当面の間、参考扱いとする。

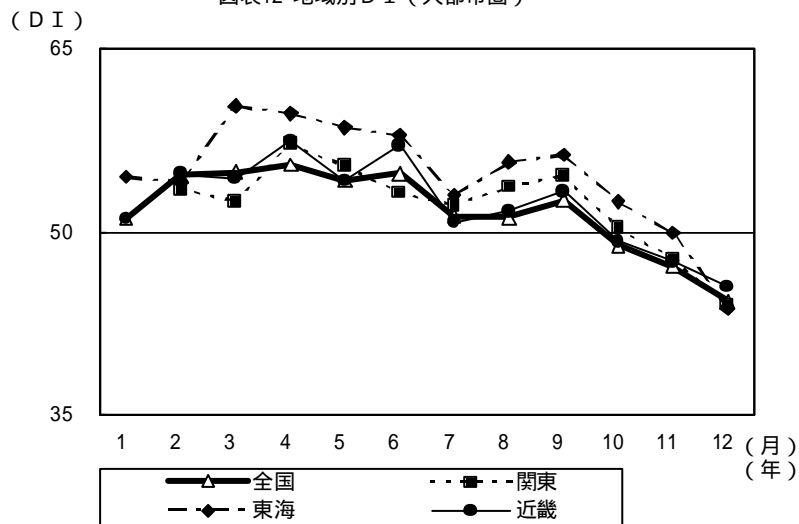
図表11 全国分野別D I



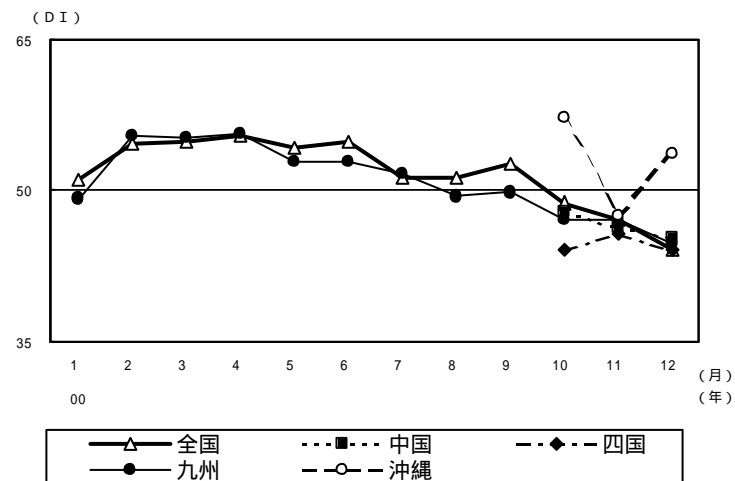
図表13 地域別D I (地方圏)



図表12 地域別D I (大都市圏)



図表14 地域別D I (地方圏)



3. 景気判断の理由

(1) 全国

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 客単価が低迷している（百貨店、スーパー、コンビニ等）。 来客数が減少している（百貨店、スーパー、家電量販店等）。
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 客単価が低下している（スーパー、コンビニ、衣料品専門店等）。
		企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 価格が低下している（窯業・土石製品製造業、金融業、不動産業等）。 受注状況に変化がない（プラスチック製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業等）。
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 受注が減少している（鉄鋼業、電気機械器具製造業、建設業等）。
	雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 求人への偏りがみられる（人材派遣会社、職業安定所、学校〔専門学校〕等）。 正社員の求人が低調である（人材派遣会社、求人情報誌製作会社）。 	
やや悪くなっている		<ul style="list-style-type: none"> 求人数が減少している（職業安定所）。 		
	特徴	<ul style="list-style-type: none"> 外資総合スーパーや大型店法の駆け込み出店の影響で競争が厳しい（商店街、百貨店、スーパー）。 歳末商戦に盛り上がりが見られない（商店街、百貨店、スーパー等）。 半導体メーカー大手はここにきて踊り場を迎え、全体的に下降気味である（電気機械器具製造業）。 求人の伸びが低下している（求人情報誌製作会社、新聞社〔求人広告〕、職業安定所）。 		
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 客単価の低下が続く（百貨店、スーパー、コンビニ等）。 消費者の買い控えが続く（商店街、百貨店、スーパー等）。
			やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 来客数が減少している（衣料品専門店、テーマパーク、住宅販売会社等）。
		企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 価格が低下傾向にある（食料品製造業、電気機械器具製造業、税理士）。 受注状況が厳しい（金属製品製造業、経営コンサルタント）。
			やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 受注が悪化傾向にある（一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、経営コンサルタント等）。
	雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 短期の雇用は伸びているが、長期の雇用は依然厳しい（人材派遣会社、求人情報誌製作会社、職業安定所）。 業種により求人動向に格差がある（職業安定所）。 	
やや悪くなる		<ul style="list-style-type: none"> リストラや倒産による離職が見込まれる（人材派遣会社、職業安定所、民間職業紹介機関等）。 		
	特徴	<ul style="list-style-type: none"> 家電リサイクル法施行の関係で駆け込み需要が期待できる（家電量販店）。 百貨店の閉鎖による悪影響が懸念される（広告代理店、職業安定所）。 求人と求職のミスマッチが今後も続く（職業安定所）。 		

(2) 北海道

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 客単価が低下したままである（百貨店、スーパー、コンビニ等）。 買上個数が増加しない（百貨店、コンビニ、家電量販店）。
			やや良くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 来客数が増加している（商店街、コンビニ、タクシー運転手等）。
		企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 不動産関連は足踏み状態にある（司法書士）。 融資が横ばいである（金融業）。
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 物流量が減少している（輸送業）。
	雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 正社員の求人が伸びていない（求人情報誌製作会社）。 パート求人の伸びが目立つ（職業安定所）。 	
やや悪くなっている		<ul style="list-style-type: none"> 新規求人数が減少している（職業安定所）。 		
	特徴	<ul style="list-style-type: none"> 大雪に見舞われ、客足が減少している（商店街、設計事務所）。 ツアー客の動きが好調である（一般小売店〔土産〕、旅行代理店、高級レストラン）。 歳暮やギフトが好調である（百貨店、スーパー）。 競合各店との競争が激化している（スーパー）。 地場産業や地元百貨店の事業縮小の影響がある（職業安定所）。 		
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 買い控え傾向が続いている（商店街、スーパー、その他専門店〔医薬品〕等）。 客単価が低下している（百貨店、高級レストラン）。
			やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 来客数が少ない状態が続く（住宅販売会社）。
		企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 売上が伸び悩んでいる（家具製造業）。 冬枯れである（その他サービス業〔建設機械リース〕）。
			やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 物量が減少する（輸送業）。
	雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 企業倒産や事業縮小による解雇者の影響が心配である（職業安定所）。 産業間にばらつきが目立つ（職業安定所）。 	
やや悪くなる		<ul style="list-style-type: none"> 新規求人数の伸び率が鈍化している（職業安定所）。 		
	特徴	<ul style="list-style-type: none"> 目的外の購入が若干多くなっている（衣料品専門店）。 雪も順調に降っているので、スキーツアー客等の増加が期待できる（一般小売店〔土産〕）。 冬枯れや公共事業減少により、建設業界を危惧する指摘がある（金融業、輸送業、求人情報誌製作会社等）。 		

(3) 東北

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 客単価が低下している（百貨店、スーパー、住関連専門店等） 来客数が変わらない（百貨店、家電量販店、乗用車販売店等）
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 単価が低下している（百貨店、スーパー、衣料品専門店等）
	企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 値引き要求が強い（出版・印刷・同関連産業） 物流が一進一退である（輸送業） 	
		やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 円安による原料高で収支が悪化している（木材木製品製造業） 	
	雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 欠員補充の募集が多い（人材派遣会社） 求人が横ばいである（新聞社〔求人広告〕） 	
やや悪くなっている		<ul style="list-style-type: none"> 求職者が増加している（人材派遣会社、職業安定所等） 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> クリスマス商戦、歳暮商戦は盛り上がらなかった（百貨店、スーパー、コンビニ等） デジタルハイビジョンなどの高額品は売れている（家電量販店） 高額シャンパンの売行きが好調である（その他専門店〔酒〕） 求人の伸びが低下した（求人情報誌製作会社、新聞社〔求人広告〕、職業安定所等） 人材派遣の先行き受注が減少傾向（人材派遣会社） 			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 客が買い回りをしている（百貨店、スーパー） 競争激化の状況は続く（スーパー）
			やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 暖冬予想で冬期商品が売れない（スーパー、その他専門店〔ガソリンスタンド〕）
	企業動向関連	やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 受注が不透明である（電気機械器具製造業） 民間投資が下降基調である（建設業） 	
		変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 影響を与えそうな要素がない（広告代理店） 	
	雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 求人が増える業種もあるが減る業種もある（職業安定所） 求人は増加するがリストラも進む（職業安定所） 	
やや悪くなる		<ul style="list-style-type: none"> 求人の増加傾向が頭打ちである（職業安定所） 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 3月頃には新型車が投入されるので、代替需要を喚起できる（乗用車販売店） 山形自動車道の開通、日本海沿岸自動車道の着工など明るい要素がある（観光型旅館） 松飾りなどの正月用品も安いものにシフトしたり買わないという客が増えている（商店街） 半導体の生産が低下している（電気機械器具製造業） 			

(4) 北関東

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 売上、乗客数が変わらない（スーパー、衣料品専門店、乗用車販売店、スナック） 買い控えている（住宅販売会社、競輪場）
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 歳末やクリスマスなどのイベント性が薄れている（商店街、コンビニ）
	企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 収益が回復しない（輸送機械器具製造業） 	
		やや良くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 忙しくなってきた（輸送業、その他サービス業〔情報サービス〕） 	
	雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 特定の求人のみ増えている（学校〔専修学校〕） 	
やや良くなっている		<ul style="list-style-type: none"> 新規求人は増加傾向（職業安定所） 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 歳末の盛り上がりがない（商店街、衣料品専門店） 忘年会、会議は大幅に減少（都市型ホテル） 地元企業の倒産、優良企業の撤退などにより、経営、雇用環境が悪化している（経営コンサルタント） 			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 低価格志向、高品質志向の二極化が続く（百貨店） 売上単価、数量ともあまり伸びが期待できない（乗用車販売店）
			やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 大型店の郊外進出に影響されている（衣料品専門店）
	企業動向関連	やや良くなる	<ul style="list-style-type: none"> 受注が増加している（輸送用機械器具製造業、その他サービス業〔情報サービス〕） 新規部品も加わっている（一般機械器具製造業） 	
		変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業への取組もまだ様子見の状態（経営コンサルタント） 	
	雇用関連	やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 倒産や企業整理を行う事業者が多くなっている（職業安定所） 	
変わらない		<ul style="list-style-type: none"> 雇用のミスマッチが増大している（職業安定所） 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 代替の問い合わせ件数が増加している（乗用車販売店） インターネット等の普及により、今後更に通信費の支出割合が高まり、他の支出を抑える傾向が強くなる（通信会社） 来年度の仕事の予定が、前年比で若干多い（求人情報誌製作会社） 			

(5) 南関東

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・乗客数が減少している（百貨店、一般レストラン、その他専門店〔眼鏡〕等）。 ・低価格志向が続いている（百貨店、都市型ホテル、住宅販売会社）。
			やや悪くなっている	・商品単価が低下している（スーパー、家電量販店、その他小売〔卸売〕等）。
		企業動向関連	変わらない	・受注量、問い合わせともに横ばいである（プラスチック製品製造業）。 ・仕事量の減少が続いている（一般機械器具製造業）。
	やや悪くなっている		・取引先の倒産が増加し、目立った売上の回復もない（金融業）。	
	雇用関連	変わらない	・求人が偏っている（職業安定所、学校〔専門学校〕）。 ・求人数が増えている（職業安定所）。	
		やや良くなっている	・一般常用及びパートの求人が増加している（職業安定所）。	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・歳末でもあまり売れない（一般小売店）。 ・歳暮・ギフトが比較的順調（百貨店）。 ・今年の人気商品は動いている（百貨店）。 ・外資総合スーパーや大型店法の駆け込み出店の影響で競争が厳しい（百貨店、スーパー）。 ・旅行は良くなった（旅行代理店）。 ・依然、求人数は増加している（人材派遣業、職業安定所）。 ・一方で、リストラによる人員削減が見られる（職業安定所）。 			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・競争激化により売上が伸びない（百貨店、コンビニ、家電量販店）。 ・客数、単価の低下傾向が続く（商店街、スーパー）。
			やや悪くなる	・安い物を求める傾向にある以上、売上は増加しない（スーパー）。
		企業動向関連	変わらない	・電話や見積依頼が増加する気配がない（電気機械器具製造業）。 ・受注状況が厳しく、受注残が少なくなっている（金属製品製造業）。
	やや悪くなる		・客先などで、春先以降の注文が減少すると聞くことが多い（その他サービス業〔廃棄物処理〕）。	
	雇用関連	変わらない	・業種間で求人に格差がある（職業安定所）。	
		やや良くなる	・企業に雇用改善が見え始めている（職業安定所）。	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・1月下旬に新型モデルが出るため、現在より良くなる（乗用車販売店）。 ・景気が良くなるときは電話の本数や見積依頼等が増加するが、現在はその気配が感じられない（電気機械器具製造業）。 ・荷主側はコスト意識を強め、絶えず効率的で安い輸出方法を模索している。いつ他社に切りかえられるか、どんな要求が出されるのか、不安が強まっている（輸送業）。 			

(6) 東海

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・低価格商品が売れている（スーパー、家電量販店、住関連専門店等）。 ・業務量全体では変化がない（通信会社、設計事務所等）。
			やや悪くなっている	・乗客数が減少している（百貨店、乗用車販売店、スナック等）。
		企業動向関連	やや悪くなっている	・採算を度外視した価格競争が続いている（建設業、輸送業）。 ・取引先の売上が前年より減少している（食料品製造業）。
	変わらない		・下請会社の受注単価が非常に厳しい（金融業）。	
	雇用関連	変わらない	・自動車とIT関連を除く業種が徐々に下降気味であり、それを自動車とIT関連が補っている（アウトソーシング企業）。 ・採用意欲は活発であるが、実際の採用決定数は横ばいである（民営職業紹介機関）。	
		やや悪くなっている	・正社員の求人が減少している（求人情報誌製作会社）。	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な物だけ買う傾向が強い（スーパー）。 ・派遣社員の需要が多く、深刻なスタッフ不足が続いている（人材派遣会社）。 ・事業主都合によるリストラが増加傾向にある（職業安定所）。 			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・客単価が低下している（スーパー、コンビニ、一般レストラン等）。 ・客数が減少している（高級レストラン、タクシー運転手）。
			やや悪くなる	・客単価が低下している（高級レストラン、パチンコ店）。
		企業動向関連	変わらない	・企業業績の上方修正の余地は少ない（輸送用機械器具製造業）。 ・一般消費財の単価が下がっているのに伴い、物流費も安くなっている（税理士）。
	やや悪くなる		・コストダウン競争が厳しい（輸送用機械器具製造業、建設業、輸送業）。	
	雇用関連	変わらない	・アルバイトやパートの求人増加に反比例するように正社員の採用は伸び悩んでいる（求人情報誌製作会社）。 ・有効求人倍率は徐々に回復しているが、求人条件は厳しい（職業安定所）。	
		やや良くなる	・正社員に固執せず、派遣社員や契約社員にも活路を見出している（人材派遣会社）。	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・家電リサイクル法施行の関係で駆け込み需要が期待できる（家電量販店）。 ・売上が順調な店とそうでない店の差が出てきている（百貨店）。 ・個人客は底固いが、法人の接待需要や多人数の宴席は減少が続いている（高級レストラン）。 ・先行きの客単価は予約の段階で10%以上低下している（高級レストラン）。 			

(7) 北陸

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 客単価が低下している（スーパー、コンビニ）。 客の買い控えがみられる（スーパー）。
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 必要な物しがない傾向（百貨店、スーパー）。
		企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 売上が伸び悩んでいる（食料品製造業）。 年末にかけての運転資金需要は前年比横ばいである（金融業）。
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 受注が減少している（金属製品製造業、建設業、輸送業）。
		雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 受注はあるが、派遣スタッフが足りない（人材派遣会社）。 新卒採用へ踏み切れない企業が目立つ（学校〔大学〕）。
やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 求人数が減少している（職業安定所）。 			
特徴		<ul style="list-style-type: none"> 暖冬気味で冬物商品が苦戦（商店街、スーパー、家電量販店）。 特売の効果が低下、必要最小限の購買傾向が続いている（百貨店、スーパー、自動車備品販売店）。 求人増に対する補填ができていないミスマッチが懸念材料（求人情報誌製作会社）。 		
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 必要な物しがない傾向（百貨店、スーパー）。 客の買い控えがみられる（商店街、スーパー）。
			やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 来客数が減少している（衣料品専門店、テーマパーク、美容室）。
		企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 取引価格の低下傾向（食料品製造業、電気機械器具製造業）。 携帯電話の新規契約数は減少していくものの、メールなど非音声部分の利用が増加していく（通信業）。
			やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 同業者の約7割で売上が減少している（化学工業）。
		雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 求人の出方が鈍くなっている（職業安定所、学校〔大学〕）。 長期で安定している仕事の見込みが少ない（人材派遣会社）。
やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 求人数におけるパート求人の割合が増加している（職業安定所）。 			
特徴		<ul style="list-style-type: none"> パソコンを購入する年代層が徐々に広がりつつある（家電量販店）。 3月の婚礼、宴会の売上が前年同月を大きく上回る見込みである（都市型ホテル）。 		

(8) 近畿

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 単価が低迷している（百貨店、スーパー、一般レストラン等）。 来客数が伸びない（スーパー、コンビニ、家電量販店等）。
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 単価が下落している（一般小売店〔衣料〕スーパー、ゴルフ場）。
		企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 受注状況に変化がない（一般機械器具製造業、電気機械器具製造業）。 売上が変わらない（広告代理店、その他サービス業〔イベント企画〕）。
			やや良くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 売上が増加している（食料品製造業、金融業）。
		雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 新規求人数は増加しているが、臨時的求人が多く、また、求人と求職にミスマッチもみられる（職業安定所）。 受注が頭打ちになっている（人材派遣会社）。
やや良くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 受注が増加している（人材派遣会社）。 			
特徴		<ul style="list-style-type: none"> 大型アウトレットの開店の影響により、売上が伸びない（商店街）。 歳末商戦は低調に終わった（百貨店、スーパー）。 旅行意欲が3か月前よりおう盛になっている（旅行代理店）。 電子部品、半導体製造設備に対する投資に前向きである（電気機械器具製造業）。 		
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の購買態度が慎重である（百貨店、衣料品専門店、旅行代理店等）。 予約状況に変化がない（都市型ホテル、旅行代理店、その他レジャー施設〔イベントホール〕）。
			やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 低価格志向が続く（自動車備品販売店、その他専門店〔ゴルフ用品〕）。
		企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 売上に変化がない（輸送業、広告代理店）。 受注状況が変わらない（経営コンサルタント）。
			やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 受注状況が悪化傾向にある（一般機械器具製造業、経営コンサルタント）。
		雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 正社員の雇用が手控えられるなかで、派遣、パート等の需要が伸びている（人材派遣会社、求人情報誌製作会社）。 雇用保険の需給者が減少していない（職業安定所）。
やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 倒産やリストラによる雇用への悪影響が見込まれる（人材派遣会社、職業安定所）。 			
特徴		<ul style="list-style-type: none"> 外資系大規模小売店の出店等により、価格競争が激化する（スーパー）。 周辺はコンビニだらけで客の取り合いになっている（コンビニ）。 奈良そごうの閉店が地域企業に影響を与え、雇用が悪化する（職業安定所）。 		

(9) 中国

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 単価が低下している（一般小売店〔酒〕、百貨店、衣料品専門店等）。 歳末商戦に活気がない（商店街、百貨店）。
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 単価が低下している（一般小売店〔菓子〕百貨店、スーパー等）。
	企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 同業他社との競争で価格が下がる（窯業・土石製品製造業）。 荷動きが減少している（輸送業）。 	
		やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 受注が減少している（鉄鋼業）。 	
	雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 非正規雇用が多い（職業安定所）。 正社員の状況は厳しい（人材派遣会社）。 	
やや悪くなっている		<ul style="list-style-type: none"> 企業の採用人数が下方修正になっている（民間職業紹介機関）。 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 歳末商戦は一部に活況を呈した（その他専門店〔書籍〕）が、全般的には低調（商店街、百貨店）。 女性客は化粧品を中心に伸びている（百貨店）。 乗用車販売店が低調。 天候が良く、冬物の衣料品が売れない（スーパー）との指摘や、客が少ない（タクシー運転手）との指摘がある。 			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 低価格志向である（百貨店、スーパー）。 必要な物のみを購入する（百貨店、乗用車販売店）。
			やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 受注が悪くなっている（乗用車販売店）。
	企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 新規の仕事がない（化学工業）。 価格低下が続く（電気機械器具製造業）。 	
		やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 売上が少なくなる（金属製品製造業）。 	
	雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 企業が厳選採用している（求人情報誌製作会社）。 企業が採用者を増やすことはしない（学校〔大学〕）。 	
やや悪くなる		<ul style="list-style-type: none"> リストラを実施する企業が多い（民間職業紹介機関）。 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の機種変更が増えている（通信会社）。 家電リサイクル法の施行による駆け込み需要に期待する（家電量販店）。 3か月先の予約状況が良くない（観光型ホテル）。 大型スーパーの閉店により、先行きが暗い（スーパー、衣料品専門店）との指摘や、離職者の増加が見込まれる（職業安定所）などの指摘がある。 製造業に一服感がある（職業安定所）との指摘もある。 			

(10) 四国

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 売上が変わらない（スーパー、衣料品専門店）。 歳暮の客数は増加しているが、客単価は低下している（百貨店）。
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 購買意欲が低い（百貨店、衣料品専門店、通信会社）。
	企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> システムを導入する企業の動きはあるが、経費は旧システムより削減する傾向にある（通信業）。 歳末商戦でも広告出稿に変化がみられない（広告代理店）。 	
		やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 油圧クレーンの稼働率は一部の地域で上がってきているが、新規の機械の購入までには至っていない（一般機械器具製造業）。 	
	雇用関連	やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 事業閉鎖や倒産などによる離職者が増加している（職業安定所）。 	
変わらない		<ul style="list-style-type: none"> 全体の求人数は増加しているようだが、業種によってはらつきがみられる（職業安定所）。 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 歳暮について、特に送料がかからないものを客が選んでいる（百貨店）。 売掛金の一部の回収が、通常月より難しくなっている（一般小売店〔書籍〕）。 受注棟数がやや減少している（住宅販売会社）。 特に好調であった情報技術関連の求人、増加傾向にあった製造関係の求人が減少している（職業安定所）。 			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 消費を刺激するものがない（百貨店、スーパー）。
			やや良くなる	<ul style="list-style-type: none"> 現在買い控えている客に動きが出る（乗用車販売店、通信会社）。
	企業動向関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> IT関連以外の地元スポンサーに、広告出稿の増加が見込めない（広告代理店）。 	
		やや悪くなる	<ul style="list-style-type: none"> 見積の依頼、回数ともに非常に減っている（電気機械器具製造業）。 	
	雇用関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 急激な求人の増加はあまり期待できない（職業安定所）。 	
やや悪くなる		<ul style="list-style-type: none"> 求人広告の予約が昨年と比べて1、2割程度落ち込んでいる（求人情報誌製作会社）。 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 特売商品だけが売れて、それ以外の購買は難しい（スーパー）。 BSデジタル放送関連商品の動きが良く、コンテンツ次第ではもっと伸びが期待できる。リサイクル法対象品目の駆け込み需要にも期待できる（家電量販店）。 秋口には広告出稿を増やすクライアントが目立っていたが、1、2月には出稿を控える業種が増えている（広告代理店）。 フルタイムからパートや派遣社員等へ企業の雇用が変化してきているが、求職者の希望と合わず、ミスマッチが今後も続く（職業安定所）。 			

(11) 九州

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・客単価が伸びない(スーパー、衣料品専門店)。 ・暖冬の影響で衣料品の動きが悪い(百貨店)。
			やや悪くなっている	・客単価が低下している(スーパー、コンビニ、都市型ホテル等)。
		企業動向関連	やや悪くなっている	・受注が減少している(電気機械器具製造業、精密機械器具製造業)。 ・ユーザーの中で支払いを延滞するところが出てきている(リース)。
			変わらない	・マンション物件の増加がみられるが、逆に毎月好調だったＩＣ関連業種からの物件がなくなってきた(建設業)。
		雇用関連	変わらない	・新規雇用より従来の社員で賄うケースが多い(人材派遣会社)。
やや良くなっている	・求人が増加している(職業安定所)。			
特徴	<p>・そごう閉店セールにより各方面からの来店が増加した(商店街)。 ・近隣に競争店が多く出店し、売上の非常に厳しく、来客数も減少している(スーパー)。 ・半導体メーカーの大手はここにきて景気の踊り場を迎え、全体的に下降気味である(電気機械器具製造業)。 ・ＩＣ関係の求人数は前月同様であるが、1件当たりの求人数が30人や50人と大量だったのが、5人や10人に減少している(職業安定所)。</p>			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・客単価が低下している(スーパー、ガソリンスタンド、旅行代理店等)。 ・低価格志向が続く(商店街、百貨店)。
			やや悪くなる	・大型店の出店でますます客の奪い合いになっており、来客数の減少、客単価の低下が予想される(スーパー)。
		企業動向関連	変わらない	・受注ができて利益幅は小さい(建設業)。 ・今後地方にもリストラの波が本格的に訪れる(金融業)。
			やや悪くなる	・半導体関連の客からの引き合い件数が減少してきている(一般機械器具製造業)。
		雇用関連	変わらない	・パートタイムの求人が伸びていて、フルタイムの求人にはあまり伸びが見込めない(職業安定所)。 ・小売業の求人が全く回復していない(職業安定所)。
やや良くなる	・ハイテク、ＩＴ関連以外からも多くの求人が入っており、さらに裾野が広がっている(民間職業紹介機関)。			
特徴	<p>・北九州市の商業全体が右肩下がり状況が続いており、消費意欲を活発化させる要因に乏しい(百貨店)。 ・黒崎や小倉のそごう等が店じまいをしているので、徐々に景気が悪くなっていく(広告代理店)。 ・全般的に半導体関連は在庫調整に入っているため、半導体用のリードフレームも下降線をたどっている(電気機械器具製造業)。 ・地元の中小企業の採用は一段と厳しくなりそうな気配である(職業安定所)。</p>			

(12) 沖縄

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・来客数が伸びていない(スーパー、観光型ホテル、観光名所等)。 ・ＢＳデジタル関連に動きがあった(スーパー、家電量販店等)。
			やや悪くなっている	・歳暮商戦の反応が鈍い(スーパー)。
		企業動向関連	変わらない	・価格が低下している(不動産業)。
			やや良くなっている	・物量が増加している(輸送業)。
		雇用関連	変わらない	・雇用が増えている(学校[専門学校])。
特徴	<p>・忘年会、クリスマスなどのイベントが重なったにも関わらず、売上、来客数が伸びなかった(その他専門店[書籍]、観光型ホテル、都市型ホテル)。</p>			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・来客数が減少、あるいは伸びない(商店街、観光名所等)。 ・イベントに対する客の反応が良い(スーパー)。
			やや良くなる	・新店舗オープン効果がある(スーパー)。
		企業動向関連	やや良くなる	・物流が増加する(輸送業)。 ・客数が増加する(不動産業)。
			変わらない	・今の状態が続く(建設業)。
		雇用関連	変わらない	・求人数が増加しない(学校[専門学校])。
特徴	<p>・家電リサイクル法施行前の駆け込み需要が見込める(家電量販店、輸送業等)。 ・世界遺産登録でマスクミ等による取材行動が活発に行われているが来客数及び売上は伸びていない(観光名所)。</p>			

(備考)

- 「多数回答」欄は、3分野(「家計」「企業」「雇用」)それぞれについて、5つの回答区分(「良」「やや良」「不変」「やや悪」「悪」)の中で回答者数が多かった上位2区分を上から順に掲載している。また、掲載されている各コメントは、それら上位回答区分の中における代表的な回答である。
- 「特徴」欄は、「多数回答」欄に掲載されたもの以外で特徴と考えられるものを掲載している。

(参考) 景気の現状水準判断D I

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった。

(1) 全国の動向

図表15 分野別D I H12年

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計	44.6	42.4	41.9	38.0 (41.4)	37.8 (40.9)	39.3 (42.4)
家計動向関連	41.5	38.6	37.7	34.0 (37.2)	34.5 (36.8)	37.1 (40.1)
小売関連	39.0	34.6	36.6	32.1 (35.2)	32.2 (35.2)	33.3 (35.6)
飲食関連	41.5	34.6	31.1	30.1 (30.2)	34.5 (33.2)	45.3 (49.0)
サービス関連	44.5	46.1	41.5	39.8 (42.4)	40.2 (41.1)	43.4 (43.6)
住宅関連				34.4	33.0	37.3
企業動向関連	49.6	47.6	49.8	44.0 (48.3)	42.3 (47.5)	42.0 (47.1)
製造業				46.4	44.2	44.4
非製造業				42.2	40.8	40.0
雇用関連	58.9	62.0	57.8	52.6 (60.9)	51.2 (58.3)	48.1 (51.1)

(2) 各地域の動向

図表16 地域別D I H12年

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全国	44.6	42.4	41.9	38.0 (41.4)	37.8 (40.9)	39.3 (42.4)
北海道	41.3	36.1	38.8	39.6 (40.9)	40.3 (41.1)	41.6 (42.4)
東北	41.0	39.8	38.5	39.3 (39.6)	36.0 (36.8)	39.6 (41.9)
関東	45.9	42.8	44.3	39.8 (43.8)	37.8 (44.9)	39.8 (46.3)
北関東				37.5	38.5	37.7
南関東				40.9	37.4	40.8
東海	47.2	51.0	47.1	41.8 (45.5)	40.4 (42.5)	39.7 (42.1)
北陸				33.5	35.9	40.3
近畿	43.1	41.7	41.5	38.0 (38.6)	37.9 (38.2)	41.2 (39.7)
中国				35.8	38.8	38.5
四国				27.1	28.4	28.5
九州	48.9	43.0	41.0	38.5 (40.2)	39.2 (41.4)	39.1 (42.4)
沖縄				40.6	48.8	42.9

(注) 景気の現状をとらえるには、景気の方角性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

調査の概要

1. 調査時点

平成 12 年 12 月 25 日～12 月 31 日

2. 有効回答率

調査客体 1,500 人のうち有効回答客体 1,384 人、有効回答率 92.3%

3. DI の算出方法

景気の現状、又は、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、この点数で回答結果の構成比 (%) を加重平均して、DI を算出した。

評価	良くなっている (良くなる)	やや良くなっている (やや良くなる)	変わらない	やや悪くなっている (やや悪くなる)	悪くなっている (悪くなる)
点数	+ 1	+ 0.75	+ 0.5	+ 0.25	0